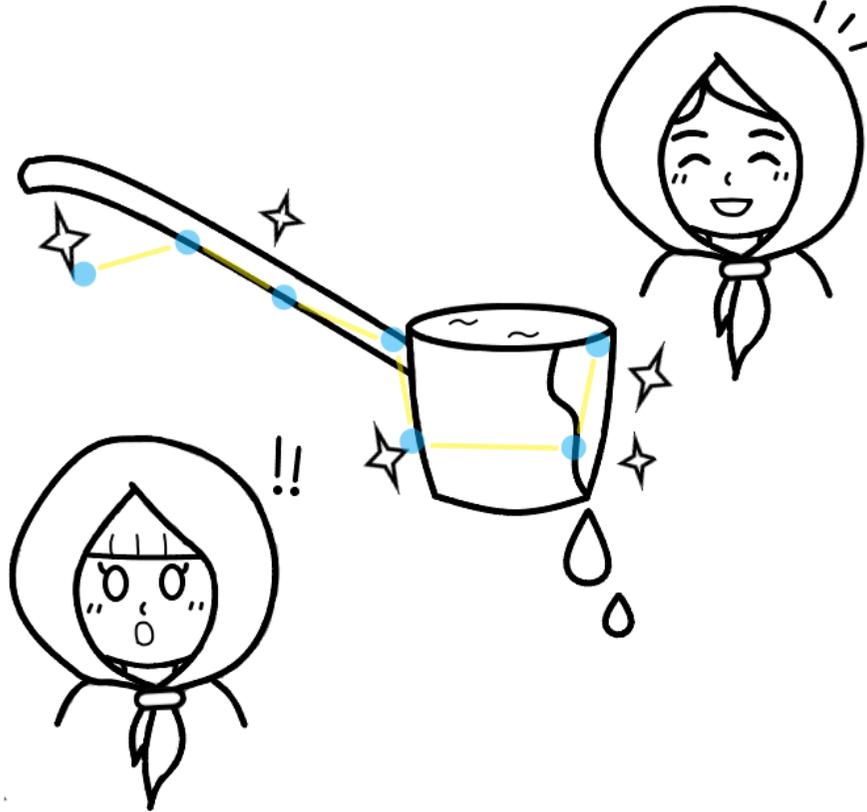


# 春の星座 北斗七星 (おおぐま座)



## ■特徴

- 明るい7個の星が水をくむひしゃくのような形に並んだ北斗七星は、おおぐま座にあるよ。
- 北斗七星は国によっていろんなものにみだてられているんだ。
- 北斗七星の柄の先から2つめの星は、ミザールとアルコールという二重星だよ。肉眼でもわかるんだ。

## ■見つけ方

春、北の高い空を見上げ、大きなひしゃくの並びを見つけましょう。水を入れる部分が、おおぐま座の胴体で、柄の部分は、長くのびているしっぽです。北斗七星を目印に、春の星座をさがすことができます。

## 北斗七星 (おおぐま座) のお話 (ロシアの民話：トルストイの再話より)

ある農村のますしい家に、ソーニャというむすめと病気になったお母さんがくらしていました。

ある年の夏、農村ではきびしい日照りが続き、そのせいで、あちこちがカラカラにかわき、水がなくなってしまったのです。あつい日が続く、お母さんは「水が一杯のみたいな…」といました。ソーニャは井戸へ行きましたが、そこにも水は一滴も残っていませんでした。ソーニャは、お母さんに「少し待っててね」といい、ひしゃくを持ち、山奥の泉へむかいました。そこになら水があるかもしれません。

遠く暗い山道を歩き、泉へたどりつきました。思っていたとおり、そこには水がありました。水をくみ、ソーニャが急いでお家に帰っていると、その途中、子犬がたおれそうになっているところを見つけました。ソーニャはとてもやさしいむすめなので、みすごすことができず、「大切なお水だけあなたにあげるわ」とさっきくんだ水をのませてあげました。子犬はすこし元気になり、ソーニャもほっとしました。

そしてまた泉へむかい、水をくむと、ふしぎなことがおきたのです。なんと木のひしゃくが銀のひしゃくに変っていました。ソーニャはおどろきましたが、急いでいるため、お家へむかいました。

ようやく家のそばまで戻ってきましたが、のどのかわいたおじいさんがうずくまっているところを見つけました。ソーニャは子犬のときと同じように、おじいさんにも水をのませてあげました。おじいさんもすこし元気になりました。

ソーニャは、またまた泉へむかい、ついたころには、もう辺りはまっくらで夜中になっていました。そして水をくむと、なんとひしゃくは銀から金へ変わったのです。急いでお家へ帰り、ようやくお母さんに水をのませることができました。

金のひしゃくで水をのんだお母さんは、とても喜び、あっという間に病気は治り元気になりました。二人はその後、末永く仲良く健康にくらしました。

この金のひしゃくは、7つのダイヤモンドに変わり、夜空にのぼって、北斗七星となりました。